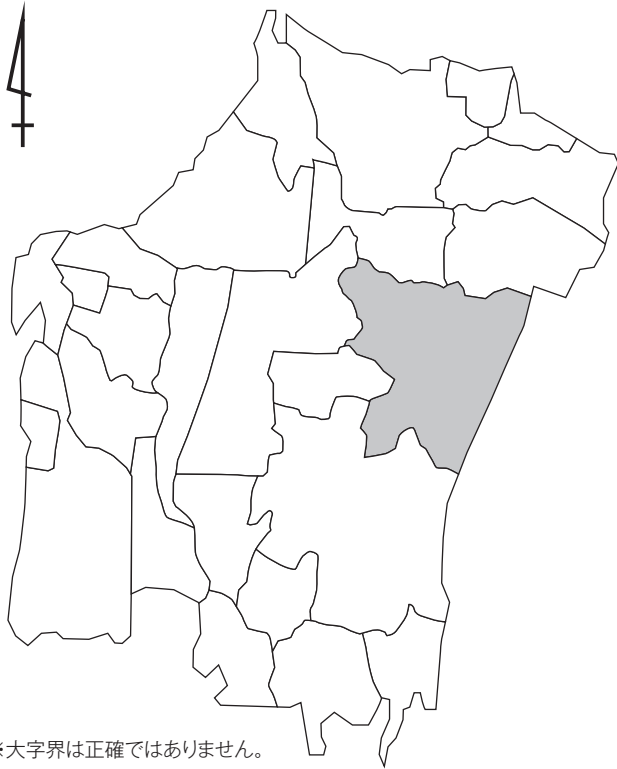


郷土かみのかわの歴史・文化財

上三川の地域と歴史 上郷

上郷は、上三川町の東部、鬼怒川右岸の低地と西側の台地上に位置しており、地区の東側に雀川、西側に磯川、中央部に江川が南流しています。江戸時代初めは烏山藩領で、それ以降は地区によって宇都宮藩領や幕府領でした。慶安郷帳によれば、現在の上郷地

区には道場村・橋本村・小里村・三軒在家村の4カ村の名がみえます。明治7年（1874）になってこの4カ村が合併し、上郷村となりました。上郷の西側の台地上には、大小20基以上の古墳が確認されています。その中で代表的



※大字界は正確ではありません。

な古墳は、上郷瓢箪塚古墳（字上野合）と愛宕神社古墳（字西原）です。上郷瓢箪塚古墳は、全長約68mの町内最大級の前方後円墳であり、「御陵地」とも呼ばれています。愛宕神社古墳は、直径約42mの円墳で、その名のとおり墳丘の頭頂部に愛宕神社が鎮座しています。社殿は、建久元年（1190）に宇都宮氏5代当主頼綱の命により建立されたといわれます。

そのうちのひとつ、「鼠観音」は昔話にもなった有名な話です。昔、いたずら好きな鼠が馬に憧れて、お地蔵様に馬にしてくるよう願掛けをしました。お地蔵様との約束どおり、鼠は35日間悪さもせず、お供えを続けました。しかし、最後の日に気がはやるあまり女の子からお供え物をくすねてしまった鼠は、頭だけ馬に変えられてしまいました。鼠は、怒

りと情けなさでやがて死んでしまいます。これを不憫に思ったお地蔵様は、鼠を観音様へと変えてあげました。そして、この話を聞いた村人達は、お堂を建てて鼠観音をお祀りしました。今でも毎年10月には、地元の人たちにより縁日が行われています。様々な歴史や文化財、伝説を今に伝える上郷の地を散策してみたいかがでしょうか。

上郷には前述の愛宕神社のほか、上郷神社が鎮座しています。仁和元年（885）、下野国の司官として下向した三位中将重末が、同社に祈願したところ世継ぎが生まれたため、寛平元年（889）に社殿を造営して星宮大明神と称し、近世に現在の社名となりました。町指定文化財である鰐口は康正元年（1455）に奉納されました。また、上郷神社に伝わる吉田流神楽は、現在では上郷神社や白鷺神社の例祭の折に奉納されています。さて、上郷には数々の伝説や言い伝えも残されています。



県道・下岡本上三川線沿いにたたずむ鼠観音寺